

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	坂道と路地の景観	未指定	斜面地と尾道水道沿いに縦横にめぐ る急な坂道と細い路地は、寺社や近代 化遺産などをつなぐ道であり、山と海 と地域の一体的な景観を生み出して いる。	
②	浄土寺本堂及び境内地、 多宝塔など	国 宝	尾道水道から港に入ると真っ先に見 える中世寺院。本堂を始めとして中世 の伽藍が残り、浄土寺山と一体となっ て箱庭の一部を形成する。	
③	西郷寺本堂・山門	国重文	本堂・山門は、背後の浄土寺山の稜線 と美しい調和がとられ、寺院と山がセ ットで成立している。その隣には昭和 初期の小学校建築物があり、参道でつ ながっている。	
④	西國寺金堂・三重塔	国重文	参道からの境内が最も広大な寺院。参 道が市民の生活道であり、寺院と山と 周囲の町並みが一体化している。坂道 の途中に表れる中世寺院。	
⑤	西國寺仁王門	県重文	参道の途中にある仁王門。坂道からも 見える大草鞋は、市民の信仰によるも の。	
⑥	常称寺本堂・観音堂・ 大門・鐘楼	国重文	鉄道と国道に境内を分断された中世 寺院。路地を抜けると民家の間に突然 大門が現れる。	
⑦	天寧寺塔婆	国重文	周辺の近代建造物の中で、そびえたつ 中世の塔。坂道と路地を歩くと眼前に 広がる重厚な塔は、斜面地を代表する 景観を形成している。	
⑧	阿弥陀三尊像（磨崖仏）	市重文	千光寺の参道を上ると見える磨崖 仏。密教の修行場として、山頂の岩肌 には多くの彫刻が残り、かつての石造 文化の名残を残す。	
⑨	旧福井邸（文学記念室）	国登録	斜面地に建つ大正時代の代表的な邸 宅。坂道と尾道水道の絶景を望めるこ の場所では、近代の繁栄を思い起こす ことができる。	
⑩	みはらし亭	国登録	斜面地に建つ大正時代の旅館。坂道と 尾道水道の絶景を望めるこの場所では、 近代の繁栄を思い起こすことができ る。	
⑪	西山本館	国登録	大正時代建築の旅館。港、造船所関係 者が多く宿泊し、外国人宿泊者用の洋 室も残る。港周辺の土蔵とともに、港 町の繁栄を思い起こせる。	

⑫	竹村家	国登録	大正時代建築の旅館。海辺に建つ景観から、『東京物語』のロケ地ともなった。
⑬	旧尾道銀行本店 (おのみち歴史博物館)	市重文	大正時代建築の銀行。商都尾道の面影を残す建物で、港の中心にあった銀行浜に位置する。
⑭	旧尾道商業会議所 (尾道商業会議所記念館)	市重文	尾道には全国で 30 番目に商業会議所が設置され、この建物は大正時代の建築。商都尾道の中心であった。
⑮	絹本著色普賢延命像 <small>けんぼんちやくしよくげんえんみょうぞう</small>	国宝	持光寺が天台宗寺院の際に製作寄進された中世密教寺院の宝物。坂道の始まりの寺であり、中世の繁栄を物語る資料である。
⑯	爽籟軒庭園 <small>そうらいげんていえん</small>	市名勝	江戸時代の豪商、橋本家の別荘。まちの中でさらに箱庭的な庭園である。尾道水道からは、川でつながっていた。
⑰	吉和太鼓おどり	県無形民俗	足利尊氏の戦勝祝いに漁師たちが踊ったことが起源とされ、中世からの港町を横断し浄土寺までの町中を歩き、浄土寺境内で踊りが奉納される。
⑱	ベッチャー祭	市無形民俗	江戸時代に港の疫病を退散する目的での神輿巡行が起源とされ、三匹の鬼が寺社や住宅を結ぶ路地・坂道を巡る奇祭である。
⑲	住吉祭	未指定	江戸時代に港町の商人たちにより始められ、尾道水道という港町の象徴的な空間の中であがる「東の両国、西の住吉」と呼ばれた花火まつり。

(※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること (例：国史跡、国重文 (工芸品)、県史跡、県有形、市無形等)。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること (単に文化財の説明にならないように注意すること)。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること (複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。